



〔海の状況 (10/16~11/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて概ねやや高め (平年差 0.5℃~1.0℃) ~かなり高め (平年差 1.0℃~1.5℃) で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて概ねかなり低め (平年差 -1.5℃~-1.0℃) ~はなはだ低め (平年差 ~-1.5℃) で推移した。(図2)

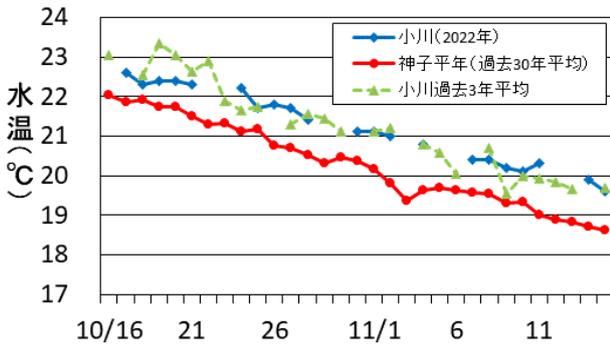


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

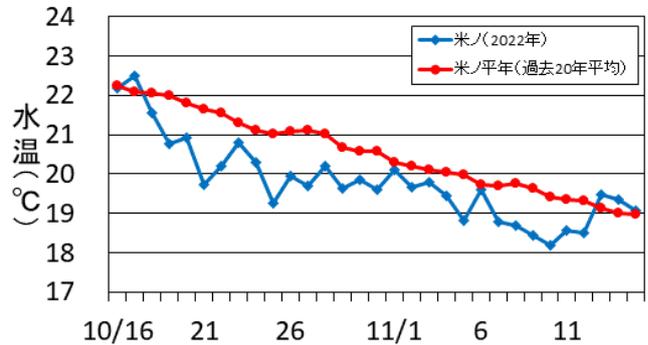


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2019年~2021年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

〔若狭湾および周辺海域の海況：10月〕

10月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0m)では、若狭湾沿岸で24℃~26℃の範囲が大きくなっていた。水深50mでは、若狭湾沿岸で20℃~22℃の範囲が小さくなっていた。水深100mでは、若狭湾北西沖で6℃~12℃の冷水塊が確認された。水深200mでは、若狭湾沖で2℃~4℃の範囲が前年より小さくなっていた。(図3)

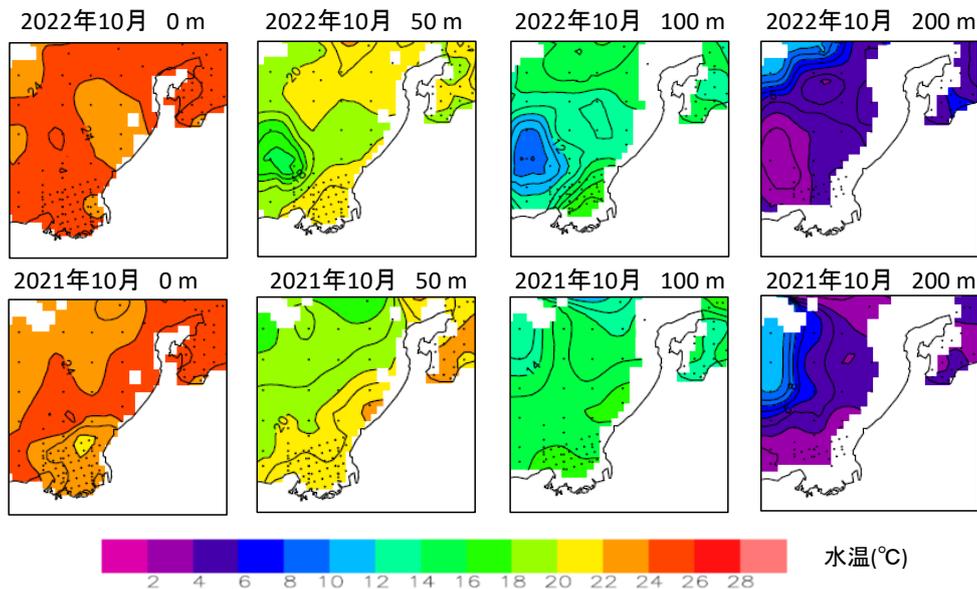


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

「越前がに」の漁模様

11月6日にズワイガニ漁が解禁となり、15日までの漁況についてお知らせします。

○資源の増加に加え好天に恵まれたことにより、オス・メス合わせて167t（前年：105t）と昨年の約1.6倍の漁獲量となりました。

○この豊漁により、国が定める漁獲可能量（TAC）の約半分に達したため、漁業者は、サイズの小さいものは海に放すなど漁獲制限を行い、シーズンの終わりまで安定供給できるよう取り組んでいます。

（漁業管理グループ 松宮 由太佳）

〔県内の漁模様：10月〕

2022年10月の県内の総漁獲量は669tで、前年同月（718t）を50t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は379tで、前年同月を56t下回った。アジ類、サバは上回ったが、ブリ類（ツバス主体）、シイラ、サワラは下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は225tで、前年同月を24t下回った。カマス、ニギス、アカエビは上回ったが、キダイ、カレイ類、アナゴ、タコ類は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は65tで、前年同月を30t上回った。スルメイカが大きく上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(10月)

定置網 (kg)					底びき網の続き (kg)																
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差										
ウルメイワシ	1,041	856	536	185	506	カレイ類	26,826	33,335	76,180	-6,509	-49,354										
アジ類	64,223	14,219	34,569	50,003	29,654	(アカガレイ)	16,433	18,310	50,866	-1,877	-34,433										
サバ	12,000	4,572	11,643	7,428	358	(その他カレイ)	10,393	15,025	25,314	-4,632	-14,921										
カジキ類	2,567	3,708	2,466	-1,142	100	フグ類	675	978	427	-302	248										
カツオ類	7,364	11,988	3,876	-4,624	3,488	アナゴ	2,509	4,560	6,714	-2,052	-4,205										
ブリ類	40,509	63,309	153,800	-22,800	-113,291	メバル類	1,859	2,559	1,977	-699	-118										
(ブリ)	196	204	540	-8	-343	ニギス	18,171	13,810	20,642	4,361	-2,472										
(ワラサ)	2,973	6,240	4,985	-3,266	-2,012	スルメイカ	2,373	2,765	4,007	-393	-1,634										
(ハマチ)	3,702	5,096	7,576	-1,394	-3,874	その他イカ	4,996	233	373	4,763	4,623										
(ツバス)	31,681	42,030	122,990	-10,349	-91,310	タコ類	1,644	4,061	7,356	-2,418	-5,712										
(アオコ)	1,957	9,740	17,710	-7,783	-15,753	アカエビ	92,652	85,402	70,167	7,250	22,485										
ヒラマサ	5,543	3,152	8,327	2,391	-2,783	その他エビ	11,958	7,663	5,031	4,295	6,927										
シイラ	87,995	109,109	72,463	-21,114	15,532	その他	29,851	56,808	68,972	-26,957	-39,121										
サワラ	95,549	151,802	345,736	-56,253	-250,187	合 計	224,981	248,936	306,539	-23,955	-81,559										
マダイ	854	1,236	3,357	-382	-2,503	その他 (kg)															
キダイ	125	67	53	58	72	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差										
その他タイ	1,523	2,177	2,623	-655	-1,101	ブリ類	794	170	427	624	367										
スズキ	1,450	1,668	2,559	-218	-1,109	マダイ	1,018	511	1,442	508	-424										
カマス	7,281	12,182	12,165	-4,901	-4,884	キダイ	5,990	6,263	6,866	-273	-877										
フグ類	10,530	8,241	6,826	2,289	3,704	アマダイ	3,456	4,390	5,536	-934	-2,080										
アオリイカ	7,427	10,611	14,588	-3,184	-7,161	メバル類	834	1,253	2,381	-419	-1,547										
その他	33,285	36,162	55,159	-2,877	-21,874	スルメイカ	21,123	416	7,802	20,707	13,321										
合 計	379,266	435,060	730,746	-55,794	-351,480	アオリイカ	1,130	1,005	1,569	125	-440										
底びき網の続き (kg)					その他					合 計											
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差				
アジ類	1,885	1,197	1,148	688	737	その他	30,467	20,777	35,298	9,690	-4,831	合 計	64,811	34,784	61,322	30,026	3,489				
マダイ	1,635	1,733	2,976	-99	-1,341	合 計	64,811	34,784	61,322	30,026	3,489	全漁法 (kg)									
キダイ	21,830	29,679	28,940	-7,849	-7,110	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差				
その他タイ	959	1,193	1,622	-235	-663	合 計	669,058	718,780	1,098,607	-49,723	-429,550	合 計	669,058	718,780	1,098,607	-49,723	-429,550				
カマス	5,158	2,959	10,007	2,199	-4,849																

※1 平年の値は2012-2021年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 ニギスの平年値は2015-2021年の7年平均です。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：10月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：10月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：10月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：10月中旬～11月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サワラ類3.4t、サバ3.1t、フクラギ・コゾクラ2.9t、カマス2.8t、マアジ1.7t

京都府…定置網…ブリ類6.36t、サワラ類3.52t、サバ類1.77t、アカカマス1.19t、マアジ0.91t

兵庫県…定置網…アジ91kg、ツバス89kg、アオリイカ12kg、スズキ11kg、カワハギ11kg、カマス5kg

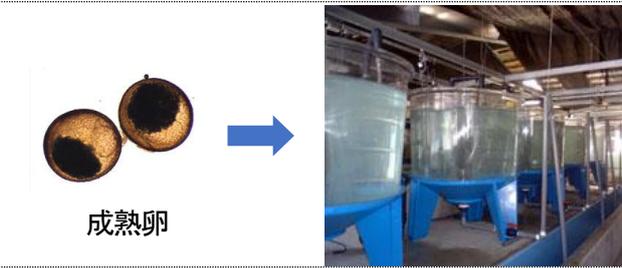
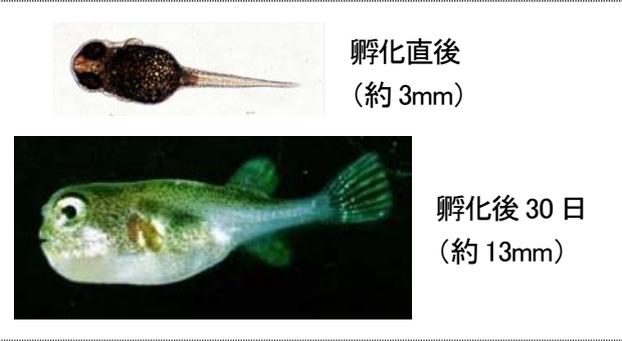
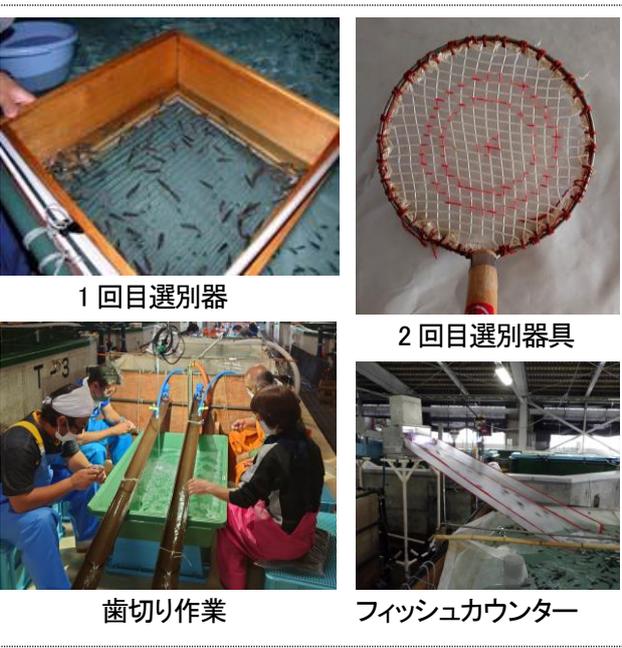
鳥取県…まき網…ブリ類9.9t、マサバ9.5t、マアジ9.4t、マイワシ0.3t、ウルメイワシ0.1t

（漁場環境グループ 梶原 大郁）

トラフグ種苗品質向上のための取り組み

【福井県のトラフグ養殖と栽培漁業センター】

栽培漁業センターでは、平成11年の生産開始以来、より良い種苗提供のため様々な工夫をしてきました。今回はその一部を生産の流れに沿ってご紹介します。

採卵	
卵管理	
仔魚と稚魚	
選別と歯切り	
出荷魚	

●採卵と卵管理

天然のトラフグは4月～5月頃産卵しますが、人工種苗の場合、電照と昇温処理した親から1月下旬ごろに卵を採ります。複数の親から卵を採り、卵質の良いもののみを選んでいきます。卵はとても粘着性が高いため、強いエアレーション中で卵管理します。5月には養殖業者へ種苗を配布するため、20℃～22℃に加温をして飼育することにより、成長を早めて7cmサイズになるよう調整しています。

●仔稚魚の飼育

卵は約10日で孵化し、ワムシや配合飼料を与えながら大きくします。過去には、仔魚の餌としてアルテミアを与えていましたが、ワムシのみの給餌でも変わらない成長が確認できたため、現在の生物餌料はワムシのみを与えています。

●選別

4cm前後に成長すると、稚魚に大小差がでてくるため選別をおこないます。より良い種苗を生産するため大きく成長の良い個体のみを選び飼育します。サイズを揃えることで、餌を均等に行きわたらせます。出荷直前には2度目の選別をおこない、出荷魚のサイズを揃えています。

選別時の取り上げと計数には、フィッシュポンプとフィッシュカウンターを使用しています。これにより直接網ですくう回数を減らすことができ、魚への負担が少なくなります。

●歯切り～出荷

4月下旬になると、歯が伸びてくるため噛み合いをするようになります。噛み合いによって傷から細菌等に感染して死亡したり、ヒレがなくなることで商品価値が下がったりします。これを防ぐため、以前は配布後に養殖業者が、歯切りや歯抜きをされていましたが、数年前からは、地元の養殖業者と一緒に栽培漁業センターで出荷前の稚魚の下歯を切ることで、傷のない魚を配布できるようになりました。

5月中旬になると、7cmまで成長したフグの出荷が始まります。沖出しされたフグは、1年半ほどで1kg以上に育てられ、活魚として出荷されたり、県内漁家民宿で提供されたりしています。

(育成技術グループ 谷保 文野)